



府議会 健康福祉常任委員会で質疑しました。

【質問項目】

- ・新感染症に対する有事に備えた取組み、データ活用
- ・高齢者介護予防・現役世代のフレイル予防
- ・薬物乱用防止について
- ・在宅医療、高齢者の救急搬送の体制について
- ・身寄りのない高齢者らの「終活」について
- ・18才以上のヤングケアラー支援
- ・デフリンピックを契機とした手話の普及
- ・こども性暴力防止法について

現場の課題解決に全力 / 各種団体から要望聴く

政策要望懇談会を開催し、各種団体から要望を受けました。このうち、大阪府中小企業団体中央会は、持続的な賃上げが可能となるよう、ものづくり補助金や省力化投資補助金などの支援策強化のほか、人材確保対策の充実も求めました。

大阪府社会保険労務士政治連盟は、労働に関する知識を社労士が高校生に教える無料の「出前授業」を今後も推進するための支援などを要望しました。

現場の課題解決のため、全力を尽くしていきます。



▲政策要望を受ける肥後府議ら

18歳以上のヤングケアラー支援を拡充へ

家族のケアのために自分の夢をあきらめざるを得ない若者を支えるため、府が新たに相談窓口を設置。

私は、本人に自覚がない、また家庭の事情を知られたくないなどの理由で支援につながりにくい「潜在的ヤングケアラー」にも届くよう、学校・大学・企業など幅広い周知を要望しました。

一人でも多くの若者が自分の未来を切り拓けるよう、「一人も取り残さない社会」の実現をめざします。



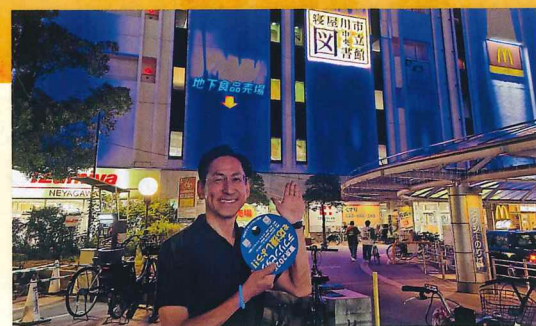
▲担当者から説明を受ける肥後府議ら

デフリンピックを契機に手話の普及を

聴覚障がい者にとって、手話は日常生活を支える大切な「言語」です。11月に日本初開催となるデフリンピックを契機に、手話への理解と関心を広げるよう訴えました。

府では条例に基づき、研修講師の派遣やイベントなど普及啓発を推進。9月23日の「手話の日」には府立施設をブルーにライトアップし、認知向上を図りました。

手話が当たり前に使われる社会へ——デフリンピックのレガシーとして継続的な取組みを求めました。



▲ブルーにライトアップされた寝屋川市駅前ビル

身寄りのない高齢者への支援体制づくりを



少子化や単身世帯の増加により、家族に頼ることが難しい「身寄りのない高齢者」が年々増えています。大阪府内でも、高齢者単独世帯は今後さらに増加が見込まれています。こうした中、入院や入所の手続き、亡くなられた後の事務手続きなど、これまで家族が担ってきた役割を支える仕組みづくりが課題となっています。

「身寄りのない高齢者等への課題に対応するための取組」について質問。国では、社会福祉協議会が中心となり、金銭管理や死後事務などを支援する新たな事業が検討されています。府としても、市町村や社会福祉協議会、地域の関係団体と連携し、誰もが安心して暮らせる支援体制を整えていく必要があります。誰一人取り残さない社会の実現をめざしてまいります。